

I 研究概要

教育支援部 主任研究員 徳永亜希雄
教育支援部 総括研究員 松村 勘由

1. 研究課題及び研究期間

○研究課題名

専門研究 A 「特別支援教育における ICF-CY の活用に関する実際研究」
(障害のある子どもの教育に今後の在り方に関する研究班所属)

○研究期間

平成 20 年度～平成 21 年度

2. 研究の趣旨及び目的

本研究は、WHO(世界保健機関)の ICF(国際生活機能分類)及びその派生分類である ICF-CY(同児童版)の特別支援教育における具体的な活用方法を明らかにし、併せてそのためのツールの開発をするとともに、適切な成果公表のために、特別支援教育における ICF 及び ICF-CY の活用等に関する状況を把握することを目的としました。本研究の背景は以下の通りです。

(1) 本研究所の ICF-CY 関連研究の知見

本研究の前身となる課題別研究「ICF 児童青年期バージョンの教育施策への活用に関する開発的研究」(平成 18 年度～19 年度)において、研究内容の一つとして教育現場での ICF 及び ICF-CY の活用方法について検討を行い、①個別の教育支援計画等における実態把握のための ICF-CY の項目の活用、②多職種間連携のための共通言語としての活用、③情報と課題の整理及び支援計画作成のための「ICF 関連図」の活用等、活用方法の方向性が示されました。

しかしながら、これらは研究パートナー校や研究協力者がかかわった一部の学校等での実践をベースにしているものであり、全国の大部分の学校では、ICF 及び ICF-CY について未だ活用が行われていない状況にあると考えられました。したがって、これから活用しようとする学校においても可能なものが必要だと考えられ、具体的には以下のようなことが課題として指摘されました。

- ・ 実用性の高い学校現場での方法論の整理
- ・ 学校現場等の目的に沿った ICF-CY の項目のセットの開発
- ・ 評価指標としての活用方法の検討
- ・ ICF-CY 及びその活用についての幅広い理解啓発
- ・ 活用のための研修パッケージの開発

(2) 中央教育審議会での ICF の取り扱い

中央教育審議会答申「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（平成 20 年 1 月）において，特別支援学校の教育課程の改善の具体的事項の一つとして ICF の活用について示されました。そのことを踏まえ，平成 20 年度に特別支援学校学習指導要領や解説書等に ICF に関することが述べられることが予想され，その対応について検討する必要がありました。同答申では ICF について述べられましたが，前述の課題別研究において，特別支援教育の対象となる学齢期では，全年齢を対象にした ICF よりも，18 歳未満を対象として分類項目の充実が図られた ICF-CY を活用すべきであることが指摘されました。

(3) ICF-CY 日本語訳発行の動き

2007 年（平成 19 年）10 月，WHO が ICF-CY を公表したため，本研究の研究期間内に日本語訳が発行されることが予想され，特別支援教育においても，ICF-CY の活用についてのニーズが高まることが予想されました。なお，前述の課題別研究では，WHO の ICF-CY ワーキンググループとの連携のもと，原文を入手し，独自に訳したものをを用いて研究が行われていました。

このような背景を踏まえ，一部の先進校以外でも活用できるような ICF-CY の具体的な方法を検討することは意義深く，学習指導要領改訂の動きと連動した喫緊の課題であると考えられました。なお，ICF-CY は ICF の派生分類であり，概念的な構造は同一です。したがって，分類項目を用いず，概念的な枠組みのみが活用されることも想定し，本研究では，途中から ICF-CY だけでなく，必要に応じて ICF についても触れ，表記についてもそこでの文脈に合わせて「ICF 及び ICF-CY」等を用いることにしました。

また，前述のとおり，ICF-CY は 2007 年に WHO で承認され，日本語訳はなかったため，ICF-CY の具体的な活用についての研究報告は，19 年度に終了した前述の課題別研究以外にはほとんど見あたりませんでした。また，国際的にも学校教育における取り組みは十分ではなく，WHO の旧 ICF-CY ワーキンググループメンバーらからも本研究所での取り組みが注目されている状況にありました。その意味で，本研究は，国内外を問わず，独創的なものであると考えられました。

以上のような趣旨のもと，冒頭に述べた目的を設定し，本研究に取り組みました。なお，前述の課題別研究において課題の一つとして指摘された研修パッケージの開発については，科学研究費補助金を通して，別途検討することにしました。

3. 研究方法

以下のような方法で研究を行いました。

- 関連文献の検討
- 特別支援学校への実地調査や関連機関での資料収集
- 関係者へのインタビューをもとにした，ICF/ICF-CY 活用の背景や目的に関する質的研究
- 特別支援学校における ICF/ICF-CY に関する認知度等及び ICF-CY チェックリスト開発のための調査研究

- 研究所内分担者・所内外協力者・協力機関・研究パートナーによるメーリングリスト, SNS, 電話, 研究協議会等を介した協議
- WHO,WHO-FIC（国際分類ファミリー）関係者, 厚生労働省他, 国内外の関係者とのICF及びICF-CYに関する情報交換
- 科学研究補助金研究「特別支援教育における国際生活機能分類児童青年期版活用のための研修パッケージ開発」との連携

4. 研究体制

以下の体制のもと, 研究活動を進めました。なお, 研究体制を検討するにあたっては, WHOがICFを翻訳する際に, 障害のある当事者を三分の一入れたメンバーで行う規定を作っていたことを参考に, 障害のある当事者, 家族の方々に協力を得るよう, 配慮しました。

- 研究代表者：徳永亜希雄（教育支援部主任研究員）
- 研究分担者：松村 勘由（教育支援部総括研究員, 副代表）
渡邊 正裕（教育研修情報部研究員）
- 所内協力者：大内 進（企画部上席総括研究員）
萩元 良二（企画部総括研究員）（平成20年度）
小松 幸恵（企画部総括研究員）（平成21年度）
菊地 一文（教育支援部主任研究員）（平成21年度）
猪子秀太郎（教育支援部主任研究員）（平成21年度）
横尾 俊（教育相談部主任研究員）（平成21年度）
- 研究研修員 加福千佳子（青森県立弘前第一養護学校）（平成21年度）
小林 幸子（静岡県立中央特別支援学校）（平成21年度）
- 研究協力者：大関 毅氏（茨城県協和養護学校）
下尾 直子氏（日本女子大学人間社会研究科社会福祉専攻）
富山比呂志氏（茨城県立つくば養護学校）
大久保直子氏（たすく株式会社）
佐藤 久夫氏（日本社会事業大学）
齊藤 博之氏（山形県立上山高等養護学校）
田中 浩二氏（社会福祉法人のあ保育園）
達 直美氏（三重県立城山特別支援学校草の実分校）
- 研究協力機関：静岡県立中央特別支援学校
東京都立墨東特別支援学校

静岡県立西部特別支援学校

- 研究パートナー：秋田県立勝平養護学校
静岡県立御殿場特別支援学校
福井県立南越養護学校

5. 研究期間中に公表した研究成果

(1) Web サイト

以下のようなコンテンツを掲載しました。

- 研究の概要
- 平成 20 年度研究進捗状況及び平成 21 年度研究活動概要報告
- ICF/ICF-CY 活用事例文献データベース
- 特別支援学校における ICF 及び ICF-CY についての認知度、活用状況等に関する調査結果
- 特別支援教育での ICF 及び ICF-CY 活用に関するよくある質問と答え (FAQ)
- 関連リンク
 - ・厚生労働省 ICF に関するページ
 - ・ICF-CY データベース

(2) 研究成果報告書等の刊行物

- 平成 20 年度
 - ・徳永亜希雄：解説：ICF(国際生活機能分類)とは何か(発表誌：特別支援教育研究・10月号、掲載年月：平成20年10月)
 - ・Akio Tokunaga：The attempt of the practical application of International Classification of Functioning, Disability, and Health (ICF) as a tool for collaboration among various professionals: A perspective on its applicability to “individualized educational support plan” (報告書名称：「NISE Bulletin, Vol.9, 1-25」, 掲載年月：平成20年11月)
 - ・徳永亜希雄：ICF-CY の観点からの特別支援教育関連研究動向分析の試み—肢体不自由教育領域を中心に— (発表誌：国立特別支援教育総合研究所 研究紀要第36巻、掲載年月：平成21年3月)
- 平成 21 年度
 - ・徳永亜希雄：ICF の視点 (発表誌：特別支援教育の実践情報 No.129 2009年4/5月号臨時増刊、掲載年月：平成21年4月)
 - ・松村勘由・加福千佳子・徳永亜希雄・小林幸子：特別支援学校における ICF 及び ICF-CY についての認知度・活用状況等に関する調査 調査のまとめ(速報)(Web サイト上の掲載アドレス：http://www.nise.go.jp/PDF/H21kenkyu_ICFCY_chousamatome.pdf, 掲載年月日：平成21年9月)
 - ・徳永亜希雄：知的障害を含む発達障害分野における ICF の活用—現状と動向— (発表誌：発達障害白書 2010年版、掲載年月：平成21年9月)

- ・徳永亜希雄：ICF（国際生活機能分類）について（発表誌：LD & ADHD No.31, 掲載年月：平成 21 年 10 月号）
- ・徳永亜希雄：キーワード解説：ICF-CY（発表誌：肢体不自由教育 192, 掲載年月：平成 21 年 11 月）
- ・松村勘由・加福千佳子・徳永亜希雄・小林幸子：特別支援学校における ICF 及び ICF-CY についての認知度・活用状況等に関する調査 調査のまとめ（最終報告）（Web サイト上の掲載アドレス：http://www.nise.go.jp/PDF/H21kenkyu_ICFCY_chousamatome_end.pdf, 掲載年月日：平成 22 年 1 月）
- ・徳永亜希雄：ICF の考え方は指導にどう生かすか？（発表誌：新しい教育課程と学習指導 Q&A, 掲載年月：平成 22 年 3 月）
- ・「特別支援教育における ICF-CY の活用に関する実際研究」研究成果報告書（本報告書）,（掲載年月：平成 22 年 3 月）

（3）学会発表等

○平成 20 年度

- ・徳永亜希雄・笹本健・大内進・西牧謙吾・渡邊正裕：ICF-CY の教育施策への活用に関する研究—国立特別支援教育総合研究所での研究成果から—（学会名：日本特殊教育学会第 46 回大会, 発表年月：平成 20 年 9 月）

○平成 21 年度

- ・徳永亜希雄・松村勘由・大内進：特別支援教育における ICF-CY 活用の背景等についての一考察— ICF/ICF-CY 活用経験者等へのフォーカスグループインタビューを通して—（学会名：日本特殊教育学会第 47 回大会, 発表年月：平成 21 年 9 月）
- ・自主シンポジウム企画「ICF の学校現場への適用VI—あらためて、特別支援教育において ICF-CY を活用する背景に迫る—」（企画・話題提供）（学会名：日本特殊教育学会第 47 回大会, 発表年月：平成 21 年 9 月）

企画者・司会者 徳永亜希雄（国立特別支援教育総合研究所）

松村 勘由（国立特別支援教育総合研究所）

話題提供者 徳永亜希雄（国立特別支援教育総合研究所）

松村 勘由（国立特別支援教育総合研究所）

齊藤 博之（山形県立上山高等養護学校）

田添 敦孝（東京都立墨東特別支援学校）

川口ときわ（静岡県立中央特別支援学校）

指定討論者 島 治伸（徳島文理大学）

- ・学会準備委員会企画シンポジウム「ICF はいかに障害児教育の課題を継承し, 克服するのか」（話題提供（徳永亜希雄））（学会名：日本特殊教育学会第 47 回大会, 発表年月：平成 21 年 9 月）

（4）研究所の研修での活用

○平成 20 年度

- ・「肢体不自由教育論」（研修・コース名：特別支援教育研究研修員, 実施年月：平成 20 年 4 月）

- ・「障害観の変遷と特別支援教育」（研修・コース名：情緒障害・言語障害・発達障害教育コース，実施年月：平成 20 年 5 月）
- ・「障害観の変遷と特別支援教育」（研修・コース名：知的障害・肢体不自由・病弱教育コース，実施年月：平成 20 年 9 月）
- ・「ICF の視点から見た肢体不自由のある子どもの理解と支援計画作成の実際」（研修・コース名：知的障害・肢体不自由・病弱教育コース，実施年月：平成 20 年 10 月）

○平成 21 年度

- ・「ICF の視点から見た肢体不自由のある子どもの理解と支援計画作成の実際」（研修・コース名：知的障害・肢体不自由・病弱教育コース，実施年月：平成 21 年 5 月）
- ・（※自主学習会企画運営）「ICF 入門コース」（研修・コース名：知的障害・肢体不自由・病弱教育コース，実施年月：平成 21 年 5 月）
- ・（※自主学習会企画運営）「ICF しっかりコース」（研修・コース名：知的障害・肢体不自由・病弱教育コース，実施年月：平成 21 年 5 月）
- ・「特別支援教育における ICF の活用」（研修・コース名：情緒障害・言語障害・発達障害教育コース，平成 22 年 1 月）
- ・（※研究所セミナー）「基調報告 特別支援教育における ICF（国際生活機能分類）活用の実際～一人一人のニーズを踏まえた指導と支援の充実のために～」（平成 21 年度 国立特別支援教育総合研究所セミナーⅡ，実施年月：平成 22 年 2 月）

（5）その他（他機関の研修・講習会での発表等）

○平成 20 年度

- ・（外部委員）徳永亜希雄：厚生労働省 生活機能分類一小児青少年版（ICF-CY）検討会構成員として参加（平成 20 年 6 月～21 年 3 月）
- ・（レクチャー）Akio Tokunaga, Koji Tanaka: ” Implementation and Current Efforts of ICF-CY for Special Needs Education (SNE) and ECI in Japan”. IMPLEMENTING (THE ICF-CY) IN PRACTICE, POLICY AND RESEARCH IN EARLY CHILDHOOD INTERVENTION (ECI). (平成 20 年 6 月，スウェーデン)
- ・「ICF 及び ICF-CY の概要と特別支援教育における活用」（主催：静岡県立西部特別支援学校，実施年月：平成 20 年 6 月）
- ・「寄宿舎における生活支援の在り方－ICF の概念と活用法－」（主催：出張：青森県総合学校教育センター，実施年月：平成 20 年 7 月）
- ・「肢体不自由教育における ICF の活用」（主催：千葉県肢体不自由教育研究会，実施年月：平成 20 年 8 月）
- ・「ICF を個別の教育支援計画にどう生かすか」（主催：静岡県立西部特別支援学校，実施年月：平成 20 年 8 月）
- ・「肢体不自由のある子どもの理解と指導」（主催：北九州市立教育センター，実施年月：平成 20 年 8 月）
- ・「新学習指導要領と指導の充実－ICF（国際生活機能分類）最前線－」（主催：静岡県立中央特別支援学校，実施年月：平成 21 年 1 月）
- ・「今後の特別支援教育実践について考える－新学習指導要領等と ICF 及び肢体不自由教育に関

する記述を踏まえつつー」(主催:東京都立墨東特別支援学校, 実施年月:平成21年2月)

○平成21年度

- ・「特別支援教育における ICF の活用」(主催:浜松視覚特別支援学校, 実施年月:平成21年5月)
- ・「特別支援教育における ICF の活用」(主催:宮城教育大附属特別支援学校, 実施年月:平成21年6月)
- ・「ICF/ICF-CY の概要と特別支援教育における活用」(主催:れいんぼー(横須賀・横浜の肢体不自由のある子どもの保護者を対象とした学習会), 実施年月:平成21年6月)
- ・「特別支援教育における ICF-CY の活用ー自立と社会参加の実現に向けた新たな連携構築のためにー」(主催:東京都立墨東特別支援学校, 実施年月:平成21年6月)
- ・「ICF における障害のとらえ方と自立活動」(主催:千葉県総合教育センター, 実施年月:平成21年6月)
- ・「ICF の活用について」(主催:東京都立光明特別支援学校, 実施年月:平成21年7月)
- ・「児童・生徒の実態を確かにとらえた支援を目指してー ICF の視点から児童・生徒の課題と支援を考えるー」(主催:山形大学附属特別支援学校, 実施年月:平成21年7月)
- ・「生徒の将来を見とおした教育計画の作成と家庭, 教室, 寄宿舎が連携した取り組み, 評価のあり方に」に関する学習会～特別支援教育における ICF/ICF-CY の活用に関連させながら」(主催:青森県立第一高等養護学校, 実施年月:平成21年7月)
- ・「寄宿舎における生活支援の在り方ー ICF の概念と活用法ー」(主催:青森県総合学校教育センター, 実施年月:平成21年7月)
- ・「特別支援教育における ICF (国際生活機能分類) の活用ー子どもにとらえかたへの活用を中心にー」(主催:大阪市教育センター, 実施年月:平成21年8月)
- ・「特別支援教育における ICF/ICF-CY の活用ー何のために活用するのか, どう活用するのかー」(主催:静岡西部特別支援学校, 実施年月:平成21年8月)
- ・「ICF の視点を生かした特別支援教育の取り組み」(主催:宮崎県立延岡たいよう支援学校, 実施年月:平成21年8月)
- ・「特別支援教育における ICF の活用について」(主催:山口県立防府総合支援学校, 実施年月:平成21年8月)
- ・「ICF の理念と実践ー特別支援教育を中心にー」(主催:北海道立特別支援教育センター, 実施年月:平成21年11月)
- ・「特別支援教育における ICF 活用の動向」(主催:秋田県立勝平養護学校, 実施年月:平成21年12月)
- ・(※指定討論)公開研究会 寄宿舎分科会において(主催:静岡県立中央特別支援学校, 実施年月:平成22年1月)
- ・「新学習指導要領と ICF の視点を踏まえた授業づくり」(主催:静岡県立御殿場特別支援学校, 実施年月:平成22年1月)
- ・「特別支援教育における ICF/ICF-CF の活用動向と『ICF 関連図』の活用」(主催:東京都立墨東特別支援学校, 実施年月:平成22年2月)
- ・「ICF を活用した個別の教育支援計画の在り方～豊かな社会生活を送るために～」(主催:宇都宮大学附属特別支援学校, 実施年月:平成22年2月)

- ・「特別支援教育における ICF 活用の動向」（主催：千葉県立桜が丘特別支援学校，実施年月：平成 22 年 3 月）